

おたふくかぜ予防接種説明書

1. 予防接種の対象となる病気

◆ おたふくかぜ

おたふくかぜはムンプスウイルスの飛沫によって感染・発症します。増殖したウイルスは全身に広がり、各臓器に病変を起こします。潜伏期間は2～3週間で、他の人へ感染させる期間は、発病数日前から主な症状が消退するまでです。

主な症状は耳下腺の腫脹・疼痛と発熱です。顎下腺、舌下腺が腫脹することもあります。年長児や成人が罹患すると、症状が著明で、合併症の頻度も高まります。思春期以降になって初めて感染すると睾丸炎や卵巣炎の頻度が高まります。合併症としての無菌性髄膜炎は一般に予後は良好ですが、脳炎や難聴の場合は予後が不良です。

2. おたふくかぜワクチン(生ワクチン)

ムンプスウイルスを弱毒化した生ワクチンです。ワクチンを受けていたにもかかわらず発症した方のほとんどは軽症ですんでいます。

3. 副反応

耳下腺の軽度腫脹、無菌性髄膜炎が報告されています。副反応による無菌性髄膜炎は自然感染により発症する髄膜炎の発生率と比較すれば、非常にまれで予後は良好です。

4. 接種時期

発病は3～6歳が多いため、接種はMRワクチン第1期、小児用肺炎球菌ワクチン追加等と同時期に、あるいは終了したらできるだけ早期に接種することが勧められています。

また、日本小児科学会は予防効果を確実にするため、MRワクチン第2期と同時期に2回目の接種を推奨しています。

予防接種を受けるに際し、次のことに十分注意のうえお受けください。

- 予診票は、接種を受けるお子様の当日の健康状態を保護者の方が責任をもってご記入ください。
(各項目の記入漏れがないようご注意ください)
- 説明書及び下記の注意事項をご理解のうえお受けください。

(1) 予防接種を受けられないお子さんは、次のようなお子さんです。

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上の方)。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれている成分で※ アナフィラキシーを起こしたことがある人。
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した場合。

※アナフィラキシーとは、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。

(2) 予防接種の効果や安全性を確保するため、異なる種類のワクチンを接種する際は、次のことにご留意ください。



上記以外では、異なる種類のワクチン接種間隔は制限なし

(3) 接種後の一般的注意事項は次のとおりです。

- ① 接種当日は過激な運動はさけてください。
- ② 接種後生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめ清潔にたもってください。
- ④ 局所の異常な反応や体調の変化を訴える場合は、速やかに医師の判断をお受けください。
- ⑤ 接種後、高熱・けいれん・不機嫌等の異常な症状をあらわした場合は速やかに医師の診察を受けてください。

(4) 予防接種による健康被害救済制度

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じたりした場合には、給付を受けられる可能性があります。

※その際には、健康増進課までご相談ください

(健康増進課 電話 0285-22-9526)